



NO. 37 (通算37)

絵・文・題字  
渋谷 一夫

富士山の謎 (7)  
富士には川がない

富士山の山中には川がない。不思議な山だ。山頂から約2400mの五合目までは、水もない、泥もない、草もない、木もない、溶岩ばかりだ。雪解け水や降った雨は、どこへ行ったのだろう。普通の山には、湧き水があり滝があり、沢があり谷があり、そして川がある。何故だろう。

「富士には川がない」と言うとうと、「富士川」があるじゃないか、と反論されるもしれない。だが違う。富士川の源流は、奥秩父の甲武信岳なのだ。甲武信岳は甲州武州信州の分水嶺なのだ。ここに降つ

た雨は、山梨埼玉長野の3県に分かれて流れ下っている。甲州側は、東沢から笛吹川となり、甲府盆地で釜無川と合流して富士川となる。武州側は、真ノ沢から荒川本谷を経て荒川となる。信州側は、千曲川となり犀川と合流して信濃川となる。甲武信岳は、3つの大河の分水嶺なのだ。

ある本を見ていたら、「富士山は、山中に川を持たない独立峰」とあった。その通りだ。それは登ってみると分かる。山頂には水がない、泥もない、草がない

富士に何故川がない

普通山は、降った雨は沢になり溪谷になり、時には滝になって、大きな川になる。山麓からは伏流水が

木もない。ないない尽しだ。あるのは溶岩と火山れきばかりだ。雪解け水や降った雨は、溶岩や火山れきの中にしみ込んでしまい、山腹を流れる必要がないのだ。草や樹木があるのは、約2400mの五合目から下だけだ。だから、五合目付近を「森林限界」と呼んでいて、ここから山麓にかけて漸く水が出てくるのだ。

富士山は、降った雨は沢になり溪谷になり、時には滝になって、大きな川になる。山麓からは伏流水が

山麓からは伏流水が

だが、富士山に降った雨は、一体、どこへ行ってしま

うのだろうか。実は、山腹の溶岩や火山れきの中にしみ込んだ水は、山中の帯水層まで達し、そこから地表に流れ出すのである。これが伏流水という湧水だ。

例えば「白糸の滝」がそれだ。白糸を垂れたような細かい大小数百条の滝が、岩の割れ目から流れ落ちている。壮観だ。

北部の「忍野八海」も見事だ。沢山ある池から伏流水が湧き出ている。南部の三島市には、柿田川という川がある。川がここから始まっている場所だ。川底を見ると、伏流水が物すごい勢いで噴出している。見事だ。

山麓の富士五湖も、伏流水がたまつてできた湖である。富士山は山体の中に大きなダムを持っているようなものだ。改めて自然の驚異に脱帽する。



山麓の「忍野八海」 (伏流水の池)